

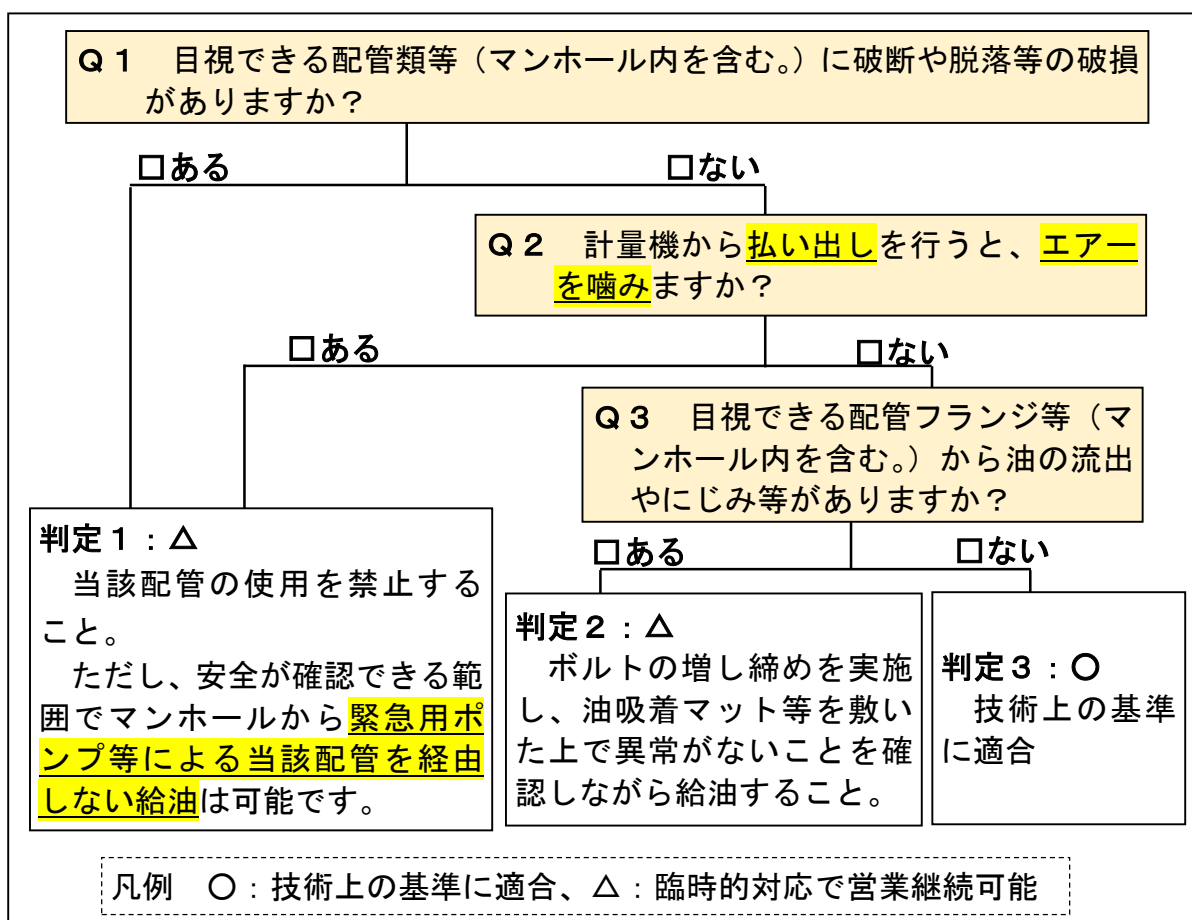
点検項目 1 4 「配管」

必要資機材：【点検用】記録用のカメラ又はカメラ機能付きスマートフォン、払い出し用資機材（携行缶又はペール缶等）、ウェス【臨時的対応】ボルト締付用工具（スパナ・レンチ等）、油吸着マット、緊急用ポンプ

1 点検方法

点検等に必要な資機材を用意し、以下の点検フローチャートに従って点検してください。該当する回答をチェックし、判定結果を確認してください。

2 点検フローチャート



3 点検に係る解説

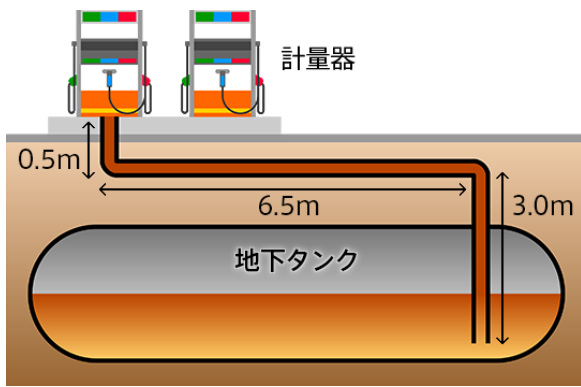
計量機から払い出しをする場合の注意点



払い出しの例

- ① 地震直後はタンク内の汚れ等が地震動で巻き上がるため、そのまま払い出しをするとフィルターが詰まる可能性があります。ポンプの起動は、地震後1時間以上経過してから実施するようにしてください。
- ② 払い出し容器は、金属製の容器を使用して、地面に直接置いてください。特にガソリンは、アースを取る等静電気に注意してください。

払い出し必要量の計算例



払い出しは、計量機から地下貯蔵タンクの底部までの配管長さ分の油を余裕をもって払い出し、エアーを嚙まないか確認する必要があります。

SSで主に使用される40A配管の場合、1mあたりの油量は約1.3Lとなります。

左図の場合、配管の長さが

$0.5\text{m} + 6.5\text{m} + 3.0\text{m} = 10\text{m}$ であり、 $10 \times 1.3 = 13\text{L}$ の払い出しが必要になります。

「エアー噛み」の確認方法

払い出しでノズルから油を吐出中に油が切れて空気を吐出する現象で、吐出量カウンターの数字が不規則に動くことでも確認できます。

このような異常が認められた場合は、給油管の損壊による空気の混入が疑われます。

また、払い出した油に水が混入していないかも同時に確認してください。



左：正常なガソリン 右：水が混入したガソリン

【出典】東京都石油業協同組合

緊急用ポンプを利用する場合の注意点



緊急用ポンプの使用例

【出典】北海道石油新聞社

- ① 地震直後はタンク内の汚れ等が地震動で巻き上がるため、そのまま払い出しをするとフィルターが詰まる可能性があります。給油を行う場合は、地震後1時間以上経過してから実施するようにしてください。
- ② 携行缶にガソリンを払い出す場合は、水を撒いた地盤面に容器を置きアースを取る等の静電気防止対策をしてください。